


地域の活力でコロナに打ち克て！



人と人がつながり、
共感し合い、一緒になって
活動することによって輪が広がり、
地域の活力を生む活動が多く展開されています。
より魅力的で活力ある地域にしていくための
こんな活動が「令和新時代創造県民運動」。
皆さんも参加してみませんか？
コロナ禍でも、元気を出して、工夫しながら
取り組まれている地域づくり活動の
事例を紹介します！

「令和新時代創造県民運動」って…？
若者をはじめあらゆる年代の方々による環境、福祉、防災、地域文化、まちづくりなど、様々な分野・地域で行われている「地域の活力」を創造する活動が「令和新時代創造県民運動」です！

例えば、こんな活動も…
草取りやゴミ拾いなどのボランティア活動、地域を元気にするために開催される地域イベント、安全安心のためのまちづくり活動、地域の未来を考える研修会・座談会など、身近に行われている活動も「令和新時代創造県民運動」です！



コロナ禍でも予防と工夫で地域の活力を創造する取り組みは続いています！

令和新時代創造県民運動

美しい景観を取り戻す

鳥取市 福部町 浜湯山・多鯨ヶ池 活性化委員会
代表者 飼牛明さん

▲急斜面の雑木を伐採
▲約700平方メートルに及ぶ急斜面での作業に必要な経費の寄付を募りました。目標額50万円を大きく上回る約94万円を達成。メンバー十数人が11月と来年2月に作業する予定です。観光客にきれいな景色を提供し、砂丘観光を盛り上げていきたいと、張り切っています。

朝のあいさつ運動で
地域を明るく

鳥取市 鳥取敬愛高校
▲10年近く続く
▲あいさつ運動

登校・通学時間帯の約20分間、卓球部やバドミントン部、生徒会を中心とした生徒有志が学校周辺でマスクをつけてあいさつ運動を続けており、地域に心地よい朝を届けています。きっかけは東日本大震災の街頭募金活動。その後は、開学以来共に歩んできた地域社会を明るくしようと、10年近く生徒数人ずつが毎日交代で街頭に立ち、行き交う人たちに「おはようございます」と元気を掛けています。コミュニケーションの基本でもあるあいさつを通して、生徒の自主性、社会性を醸成。学校に届く地域の共感の声も、生徒たちの励みとなっています。

出合いを創りだす集団

湯梨浜町 MCC
代表者 三浦幸治さん

▲子どもがサンタクロースを育てる「裏クリスマス」
▲マスク作りにも取り組む
▲利用者と職員

meecount(ミーカウント・meetとencounterを合わせて作った造語) creators clubの略で、出合いを創り出す集団という意味です。人や出来事との出合いが、子どもの世界を横に広げ縦に深めます。主な活動拠点は鳥取県中部で、子どもがサンタクロースを育てる「裏クリスマス」というオリジナル企画も行いました。また、コロナ禍では、収入減が心配されるひとり親家族へ「子ども食堂」を実施しました。10月には、子どものいる家庭を対象にした「子ども食堂」も予定しています。若い世代のパワーやアイデア、スタッフを募集しています。

障がい者、高齢者、子育て世代の母親たちの就労や経済活動を支援しよう

大山町 NPO法人 YSSだいせん
理事長 入澤由美さん

障がい者や高齢者、子育て世代の母親たちの就労や経済活動を支援しよう、2018年に発足。就労支援B型作業所やカフェの運営、お菓子の製作などを展開し、障がい者の自立や社会参加、高齢者の活躍など、誰もが生きがいや夢をもって暮らせる地域社会づくりに貢献しています。コロナ禍でも、弁当の配食サービスや手作りのマスクとマスクカバー作りなども行い、活躍の場を広げています。入澤理事長は「人々との関わりはとても大切。地域に密着した組織でありたい」と話しています。

ITで広がる地域交流

岩美町 あじろカフェ だばた
代表者 下根鈴江さん

▲オンラインで医師の話を聞く
▲オンラインで医師の話を聞く

「いらっやいませ」と明るく客を迎える女性たち。鳥取県漁協網代港支所女性部5人が、カフェで旬の魚料理を提供しながら地域交流の拠点づくりに励んでいます。大切にしているのは人と人のつながり。高齢者らが気軽に立ち寄れるよう、安心安全な環境を整えています。開店当初から、交流の幅を広げるために取り入れているIT。常連さんも店内のモニターを使ってオンラインで岩美病院の院長に健康相談をしたり、他の地域住民とゲームをしたりして楽しんでいます。コロナ禍以前に導入していたこの仕組みは、今後さまざまな分野で活躍しそうです。

誰もが交流できる場として

倉吉市 こども食堂とみんなの居場所 ほっとここ
代表者 田中昭子さん

▲お料理の弁当
▲お料理の弁当

毎月第1金曜日と第3土曜日の月2回、午前11時半～午後8時に開設しています。子どもから高齢者まで誰もが交流できる場であるとともに、季節の旬が味わえる手料理が人気を呼び、毎回100人以上が利用しています。新型コロナウイルスの感染拡大防止策として4月から、食事はテイクアウトの弁当に切り替え、同所での食事希望者には個室で対応しています。元医院を活用して、2016年12月のオープン以来、食事作りのボランティアや食材提供など多くの人が協力しています。花の球根を参加者らが一緒になって植えたり、弁護士が相談に乗ったりとさまざまな交流が生まれています。田中代表は「3年半たち、なくてはならない場所に成長しています。次はオープンテラスを作りたい」と話しています。

「見え見え」透明マスク

米子市 西部ろうあ仲間サロン会
理事長 森田忠正さん

▲米子市教委の浦林さん
▲米子市教委の浦林さん

新型コロナウイルスの感染予防のためのマスクで聴覚障がい者の意思疎通に支障が出ていたことから、口元が見える塩化ビニール製の透明マスク「見え見え」を製作しました。教育に役立ててもらおうと鳥取県や米子市などに寄贈。ろう学校や中学校の英語の授業、小学1年の指導などで活用されています。通気性の良い形で、英会話スクールや手話ガイドなど県外からも注文が寄せられています。透明マスクを使ってもらいながら、聞こえない人たちの暮らしの実態への理解を深めてもらうことも期待しています。

オンラインも活用しながら
日野郡の高校生に学びの場を提供

日野郡 まなびや縁側
代表者 片平誓子さん
(ふるさと教育推進コーディネーター)

▲エブ会議システム
▲エブ会議システム

日野郡3町が共同で設立した、日野郡在住か日野高に通う高校生を対象にした公設塾です。月～土曜に英語と数学を中心とした学習支援、進路相談、課題解決型学習を活用したAO・推薦入試対策を行っています。元大手予備校講師や元青年海外協力隊員など、講師陣は経歴豊か。初年度の今年はコロナ禍の影響でオンライン授業を余儀なくされましたが、郡内では遠方に暮らす学生も多かったため好評でした。現在は対面授業も再開していますが、事務局の片平さんは「オンラインの利点を生かして山陰では出会えないようなゲスト講師を呼ぶなど仕掛けを考えたい」と、対面とオンラインを融合した塾運営に意気込んでいます。

